

2. 5 音楽科

原口 直

1. 研究主題

「表現力を高め、社会や文化とのかかわりに活用できる生徒の育成」

2. 研究主題について

本校の研究テーマである「世田谷中学校で育てる『21世紀型能力』－各教科で支える力と3つの学習形態」において、音楽科では「表現力を高め、社会や文化とのかかわりに活用できる生徒の育成」に焦点を当てた。

「21世紀型能力」の提案の中で、音楽科が育む力は主に下の3点であると考えた。

- ①中核となる思考力
- ②それを支える基礎力
- ③使い方を方向づける実践力

②基礎力は日々の授業や中学校以前から培ってきた表現のために必要な能力である。すでにもっている基礎力の中から何をどう使うか考えたり、能力の不足があった場合どのように補うのか考えたりするのが①思考力であり、それを実際に活用することが③実践力となる。これらの3つの力は関わりあっている。

音楽科にとって高めたい表現力は特に②基礎力と①思考力に関わりがある。歌唱における表現とは、読譜をし、歌詞を理解し、音楽を形づくっている要素を理解し、作者の意図を理解したうえで、自分の持っている技術や能力を活かしたり、さらに付け加えたりして相手に伝えることのできる力であると考えます。また、鑑賞の表現として得た知識から自分の意見をまとめ、社会や文化につなげ相手に伝えるという力も求める。つまり、単に音での表現だけでなく音楽を通して社会や文化とのつながりを考え、話すことや書くことで表現をする必要がある。とにかく、音楽科での表現というと歌唱や器楽、創作といった音で表現することに偏りがちだが、音楽科でも言葉での表現を取り入れたいと考えている。

さらに、「21世紀型能力」の提案の中で音楽科の指導目標や内容について、

- ①音楽活動の基礎的な能力
- ②コミュニケーションを図る指導
- ③音や音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるような指導

と具体的な指導が明記されている。

3. 授業展開の例

ここでは、歌唱と鑑賞の2つに分け、それぞれが表現力を高めていることと社会や文化にどのようにかかわりを持っているかを紹介したい。

(1)歌唱

歌唱における②基礎力は大きく2つあり、楽譜を読むために必要な知識（ソフト）と表現に必要な体（ハード）である。この②基礎力をつけるために必要なのが①思考力であり、これは自分がめざす

表現をするために、この知識や技術が足りないのかを発見し、それをつけるためにどのようにすればよいのか考える力のことを指す。

①知識の基礎力

まずは音符や休符、記号を覚える読譜力をつける活動である。音楽には様々なルールがあり、1年生の教科書に載っているものは音符と休符で16種類ある。記号では音高の変化、音の強弱、反復、速度、演奏の仕方、その他の楽語で掲載数は50を超える。それ以外にト音記号やヘ音記号、階名（ドレミ…）など②基礎力をつけるために、始めに覚えることが多く存在する。漢字や英単語を覚えるような基礎的な活動ではあるが、のちに表現する時の効率をよくし、思考したことを反映させるためにはなくてはならないことと位置付けている。これは1学年のはじめに重点的に行い、3学年通して授業内でくりかえし使っている。加えて、拍子や速度といった楽譜から得られる情報を単元の始めに毎回必ず確認している。

さらに、音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など）を聴きとれるようにするため、ほぼ毎回の授業の冒頭にジャンルの異なる音楽を聴かせて、音楽の何に耳を傾ければ良いか、それをどのように言葉に表現すれば良いかを学んでいる。音を言葉に表すことで、音楽のちがいや自らの好みを明確にし、他人に伝えることができるようになり、この力がのちの思考に役立つ。

また、欠かせないのは作者への意識である。自分が表現することを思考する際に、まず作者がどのようなことを表現しようとしているのか理解することが第一歩となる。その中には時代背景や歌詞等も含まれる。

②体の基礎力

取り入れているのは発声練習である。姿勢や目線を意識し、喉・肺・腹部を目的を明確にして動かす。すぐに身に付くものではなく、すぐに役立ったと感じられるものではないかもしれないが、のちに表現の幅を広げる上で欠かせない基礎力である。こちらは1年生で重点的におこない、2・3年生では歌唱曲の内容に応じて、適宜おこなっている。

③基礎力を活かした思考力

以上2つの②基礎力と①思考力は密接に関わり、さらにそこに③実践力を加え、表現を高め合っている。

独唱の場合、この曲でこういった表現をしたいと[表現のための第一の思考]をする。知識が足りず自分の目指す表現ができなかった時に「どのような力が足りないのか」それを身につけるために「どのような方法があるのか」を[基礎力のための第二の思考]を持って考える。それを表現に結びつけるために実践を重ねる。歌唱『赤とんぼ』を例に取ると下記のようなになる。

実践 歌唱『赤とんぼ』

[表現のための第一の思考]

歌詞に出てくる人物の気持ちを知って歌いたい。

[基礎力のための第二の思考]

作詞者が夕焼けに飛ぶ赤とんぼを、姐や（子守娘）と一緒に見た感情を知るためにはどうすれば良いか。

[基礎力のための第一の実践]

・作者の描いた土地や季節について調べる。

- ・ 写真を探す。
- ・ 生活や文化、時代背景を調べる。

[表現のための第二の実践]

「お里の便りも絶え果てた」の終わり方の強弱を工夫する。

また、独唱での個人の表現と、合唱での集団での表現はさらにちがいがあある。集団で表現をするためには、個々の表現を一つにまとめたり、精査したり、ある一人の表現に寄せたりと、さらに高度な①思考力が必要となる。その際に、もともと持っている②基礎力の差が出る。

(2)鑑賞

鑑賞における②基礎力は歌唱と重なる部分がある。前述した、音楽を形づくっている要素を聴きとる、作者への意識は歌唱と同じく必要な力である。また、2年生『交響曲第5番ハ短調』1年生『魔王』などの西洋音楽の鑑賞教材では歌唱と同じように読譜の基礎力が不可欠になる。

それを踏まえた上で、鑑賞では社会や文化とのかかわりをより色濃く出して指導をしている。それは授業で習ったことを、授業と考査でしか生かす場がないのは「21世紀型能力」が求める「生きる力」につながっているとは言い難いからだと考える。社会や文化と結びつける①思考力を養ってはじめて鑑賞の授業が成功したと言えよう。

実践①

『交響曲第5番ハ短調』（ベートーヴェン作曲）

「コンサートのチケットが手に入りました。どのような準備をしていきますか？」

コンサートに行く時に作曲者や時代背景などの②基礎力を培うだけでなく、曲の構成や形式を①思考することでより深く鑑賞ができるようにする。

[社会や文化とのかかわり]

企業や財団などが芸術文化を支える社会体制を知り、生活の中で音楽鑑賞をする文化を知る。

実践②

『日本の郷土芸能』『世界の諸民族の音楽』（エイサー、阿波踊り、ウズンハワ、京劇など）

「外国の方に『日本の音楽を教えてほしい』と言われたら何と説明しますか？」

音楽の特徴をつかむだけでなく、他人に説明する事を前提として比較したり、言葉を選んだりする。

[社会や文化とのかかわり]

国際社会において我が国の文化を説明したり、世界の音楽についての知識や理解を深めたりする。

実践③

『文楽「菅原伝授手習鑑」より』

「鑑賞した後、大阪市が文楽協会への補助金廃止を提案したことについて知り、文楽の存続を考える。」

芸能の特徴を知った上で、芸能をつなげる難しさや意義と地方財政とを結び付けて考える。

[社会や文化とのかかわり]

芸術文化を支える国や地方自治体で起きている問題を知る。生活の中で文楽を鑑賞しなければ関係のない事でなく、納めている税金がどのように使われているのか関心を持つ。

実践④

『僕たちは戦わない』（AKB48）他

「AKB48 は、いくらもらっているのか？」

CD を販売するために関わる様々な職種の人々の働きを知った上で、その生活を守ることを考える。
[社会や文化とのかかわり]

音楽制作に携わる人々を守る上で欠かせない著作権に触れ、現在起きている問題やこれから起こりうる問題を考える。

4. 公開授業における提案

上記より、実践③の文楽を使った鑑賞の授業を展開した。3年生だからこそ持ちうる資料集め、活用、まとめ等の能力を存分に発揮した。鑑賞で留まらず、生徒の社会に還る授業ができたと考えられる。

5. 結果と課題

民族音楽等に詳しい先生方から貴重なご意見をいただけたのが有効だった。音楽の関わる部分が広すぎるため、その一端から要 / 不要を判断させるのは難しいとの意見には納得した。しかし、限られた時数の中では浅く広く学ぶのが精一杯である。生徒にとっての種まきになり、かつ偏りのない授業にすることの難しさを感じた。

第3学年 音楽科学習指導案

日 時	平成 28 年 6 月 18 日 (土)
第 2 校時	14 : 05 ~ 14 : 55
対 象	第 3 学年 B 組 39 名 (男子 20 名 女子 19 名)
授業者	東京学芸大学附属世田谷中学校
音楽科教諭	原口 直
場 所	本校 2 号館 2 階 音楽室

1 題材名 日本の伝統文化に親しもう「文楽を守れるか」

2 題材の目標

文楽を通じて、音楽と社会とのつながりを考える。

文楽について調べた内容を共有するとともに、意見をまとめて結論づけることができる。

3 学習指導要領との関連

【B鑑賞（1）指導事項】

イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸能と関連付けて理解して、鑑賞すること

4 題材の評価規準

	〈観点1〉 音楽への関心・意欲・態度	〈観点4〉 鑑賞の能力
題材の評価規準	音楽の特徴とその背景とその背景となる文化・歴史や他の芸能との関連に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	歴史や他の芸能と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。
学習活動おける具体的評価規準	①鑑賞において、関心をもって床本や映像を鑑賞している様子が見られる。 ②調べ学習において、図書やタブレット等を使用して知識を得ようとしている。	①調べ学習において、テーマに基づいた多角的な情報を関連付けて理解している。 ②得た知識や議論を踏まえて、芸術を維持するべきかについて価値を考えている。

5 指導観

(1)題材観

本題材は、学習指導要領の鑑賞の指導事項イ「音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸能と関連付けて理解して、鑑賞すること」を達成するための題材である。本題材における目的は社会との結びつきを感じ、助成金を得ている文楽が「一部の愛好者だけが触れるもの」「自分には関係ないもの」とせず、生徒自身の生活に間接的に関わっていることを知り、親しみを持ってほしいと期待し設定した。

(2)生徒観

今までに公演やメディア等で文楽を聞いたことがある生徒はいなかった。それは、この学級だけでなく学年全体（159名）でもまったくいなかった。それだけに興味・関心は高く、第1時の鑑賞（約14分間）では配布した床本や映像を食い入るように見ている生徒が多かった。集中力を切らしている様子が見受けられたのは、39名のうち2～3名であった。

我が国の音楽に関しては、1年生で箏、尺八と和太鼓、2年生で日本の芸能と和太鼓を既習している。出身は東京都世田谷区を中心とした範囲で、地元伝統的な芸能がある生徒はごく少ない。

社会との結びつきを特に意識した授業として、2年生では《日本の郷土芸能》《世界の諸民族の音楽》を教材に「外国の方に「日本の音楽を教えてほしい」と言われたら、何と説明するか」を扱っている。また、《民衆の歌》《花は咲く》《We Are The World》《Happy Christmas (War Is Over)》を教材として「社会を動かす歌」の鑑賞をおこなった。

また、本題材では調べ学習として図書室の図書やタブレットを活用した。休み時間のほか、国語、社会、家庭科等の授業で利用しており、生徒は図書室で調べ物をすることに慣れている。

(3)教材観

教材名 文楽「菅原伝授手習鑑」“桜丸切腹の段”から抜粋

文楽は17世紀後半、大阪で成立、発展した。18世紀半ばに全盛期を迎え、一度は衰退するものの、19世紀初めに植村文楽軒がこれを復興した。

平成26年、大阪市は文楽への助成金を市の財政難と観客動員の少なさ等を理由に一時全廃した。その後、協会や技芸員などの努力や工夫によって助成金は復活したが減額された。

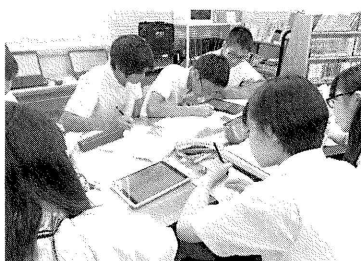
「菅原伝授手習鑑」は延享3（1746）年大阪・竹本座で初演された時代物で、全5段からなる。菅原道真が藤原時平の企みによって京の都から九州・太宰府へ左遷された事件と松王丸、梅王丸、桜丸の三兄弟の活躍を題材に作られた。中でも「桜丸切腹の段」「寺子屋の段」は人気演目で、この部分だけが単独で上演されることも多い。本作品と「義経千本桜」「仮名手本忠臣蔵」はいわゆる三大名作として歌舞伎などでも繰り返し扱われている。

<第1時の様子>

◆鑑賞（音楽室）



◆調べ学習（図書室）



6 題材の指導計画と評価計画（全2時間扱い）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	具体的評価規準 (評価方法)
◆文楽を通じて音楽と社会とのつながりを考え、意見を持つ。		
1	○文楽の鑑賞と解説を聞き、基礎的な知識を知る。 ・作品のみの解説で鑑賞をし、三業の役割と歴史の概略を知る。 ○テーマに基づいた調べ学習をする。 ・図書室の資料を活用し、与えられたテーマに基づいて調べる。	関心をもった鑑賞 (見取り、ワークシート)
2 (本時)	○得た知識を共有し、結論に結びつく議論をする。 ・グループ活動で互いの知識を共有する。それを基に自分の意見を持つための議論をする。 ○共有した知識と議論を踏まえて、結論を出す。 ・自分の言葉で結論をまとめる。	多角的な観点、結論 (発言、ワークシート)

7 本時（第2時／全2時間中）

(1)本時のねらい

文楽について調べた内容を共有するとともに、意見をまとめて結論づけることができる。

(2)本時の展開

	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点	具体的評価規準 (評価方法)
	○別のテーマを調べた生徒で5人班を作り、調べた内容を他の生徒に発表する。 「歴史」起源、時代背景、制作・伝承した人物等 「職業」関わる職種や芸芸員の年取等 「人形」かしらや衣装の種類、制作費、維持費等 「作品」時代物と世話物、歌舞伎との共通作品等 「新たな視点」国際的な視点、集客の工夫等		・言葉の選び方 (発表) ・資料の活用 (ワークシート)
	○班で議論「文楽を守るか」それぞれが調べた内容、聞いてまとめた内容を踏まえて、そのことについてどう考えるか議論する。(10分) ○班の代表者が情報の内容および議論の経過を発表する。(10分)	・5人で1つの意見に集約する必要はないことを促す。 ・自分の結論に結び付けられるよう促す。 ・特に結論に結びつく全体で発表するよう言葉がけをする。	・議論に対する関心 意欲態度 (話し合い、ワークシート)
	○自分の意見をまとめ、文章にまとめる。(10分) 多様な情報と意見を踏まえ、「文楽を守るか」を文章にまとめる。	・自分の班で出た意見や議論と異なっても良い。	・関連づけ (ワークシート)

8 使用するワークシート・資料

(1) B 4 横置き

左ページ→

平成 28 年 6 月

3 年「文楽を守れるか」

日時	配時	内容
第1時 音楽室→図書館 6/16 木	15分 10分 5分 20分	鑑賞「菅原伝授手習鑑」三段目「桜丸切腹の段」より抜粋 鑑賞 解説(文楽とは/舞台のしくみ/太夫、三味線、人形) (図書館)説明 本題・班編成 しらべ
第2時 音楽室 B: 6/18 土 ACD: 6/30 木	20分 10分 10分 10分	混合班で情報交換 混合班で議論「文楽を守れるか」 代表者の発表 自分の意見をまとめる

◆話の内容

「菅原伝授手習鑑」

人形浄瑠璃として延享3年(1746)大阪で初演。五段で約8時間。

平安時代、右大臣である菅丞相(=菅原道真)は左大臣である藤原時平の陰謀により、九州へ流罪となる。それを巡って、菅家に仕える家柄に生まれた三つ子の兄弟、梅王丸、松王丸、桜丸が活躍。梅王丸は菅丞相の舎人。桜丸は齋世親王(天皇の弟)の舎人。松王丸は藤原時平の舎人。桜丸は、菅丞相の流罪の原因をつくったことを悔やみ自害。松王丸は最後に、菅丞相の跡取りである一人息子の身代りとして、わが子を差し出し、菅家への恩義を果たす。やがて藤原時平は滅び、菅丞相は天神として祀られていく。

「桜丸切腹の段」あらすじ

三段目。上演は約50分間。場所は三つ子の実家。

父である白太夫の誕生日祝いに三つ子の息子(松王丸・梅王丸・桜丸)とその妻が実家に集まるが桜丸だけいない。祝いを終えて、別れる。

納戸に隠れていた桜丸が現れ、妻の八重に切腹の覚悟を告げる。白太夫はなんとか引き留めようとしたが、おみくじと折れた桜の木を見て諦めたと言。桜丸は自害し、白太夫の打ち鳴らす鉦の音に送られて息絶える。八重も後を追おうとするが梅王丸に止められる。白太夫は旅立つ。

右ページ↓

床本(太夫が語っている詞章)	
1 (白太夫が語めた理由を八重に話した後) 2 「(前略)思ひ切つておりや泣かぬ、そなた 3 も泣きやんな、ヤア」 4 「泣く、アイ」 5 「泣く、アイ」 6 「泣きやんない」 7 「ア、アイ」 8 「泣く、アイ」 9 「アイくくくアイナア」 10 「泣きやんないナア」 11 「あれ聞いたか女房ども。桜丸が命惜しま 12 れて、老人の心遣ひ。御恩も送らず先立つ 13 不孝、御敵されて下されい。下野ながら和 14 を知り、義のために相果つる」 15 と三方取つて戴くにぞ 16 「さうこれ今が別れか」 17 と泣くも泣かれぬ夫の覚悟 18 白太夫目をしばたき 19 「潔い倅が切腹、介錯は親がする。その刀、 20 コレ、見やれ」 21 と懐から取り出すは、願ひ込んだる鉦後 22 木 23 「この刀で介錯すれば、未承承却迷はぬ功 24 カ、利剣即足弥陀乎」 25 と後木を取つて打鳴らす、鉦おしよるに 26 「なまいだく。なまいだく。なまいだく、 27 なまいだく。なまいだく。なまいだく、 28 念仏の声と諸共に、襟押し並げ九十五分、 29 弓手の脇へ突立つれば 30 八重が泣く声 31 打つ鉦も、拍子乱れて 32 「なまいだ、なまいだ、なまいだく。なまいだ 33 なまいだ」 34 右の脇へ引き廻し 35 「憚りながら、御介錯」 36 「オ、介錯」 37 と後へ廻り、後木振り上げ 38 「南無阿弥陀仏」 39 と打つや、この世の別れの念仏 40 九十五分取り直し、妻のくさりをはね切つ	41 て、かつばと伏して、息絶えたり 42 八重が覚悟もこの場を会はず、夫の血刀取 43 り上ぐる 44 寂寂の蔭より梅王丸、走り寄つて 45 「コリヤ何事」 46 と九十五分もぎ取り捨て、親の前に跪り 47 「先程降れとありし時、表へは出でたれど、 48 桜丸が来ぬ不思議と、丞相様の御秘藏あ 49 りし、アレあの桜の折れたを詮議もなされ 50 ぬ、かれこれ不容に存ずるから、哀より忍 51 び立ち戻り、始終の様子承つた。是非 52 に及ばぬあの樹と共に枯れし命の桜丸、兄 53 弟の最期余所に見て、親人の鉦鼓に合はせ、 54 女夫の者が忍びの念仏。あつたら若者殺せ 55 し」 56 と梅や打夫婦も 57 聞く親も 58 八重も死なれぬ身の繰り言、是非も涙に 59 「南無阿弥陀仏」 60 と鉦打ち納め 61 後木と代はる杖と笠、白太夫は片時も早 62 く菅丞相の御跡慕ひ島へ赴く現世の救立 63 ち 64 桜丸が魂魂は、未承へ款立ち 65 「この亡骸、梅王丸様頼むぞ」 66 と八重が事までつとくに、頼む詞の置土産。 67 冥途の土産はた、念仏 68 「南無阿弥陀仏々々々々々々、南無阿弥陀 69 仏。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀 70 仏々々々々々々々」 71 南無あみだ笠打ちかぶり、西へ行く足、十 72 万徳土 73 亡骸送る親送る、生きての忠義、死したる 74 義臣、一樹は枯れし無常の桜 75 残るに樹は松王丸、梅王 76 三つ子の親が住み所、未世にそれと白太夫、 77 佐太の社の旧跡も、神の恵みと知られる

文楽床本集より抜粋
(平成二十四年一月 国立文楽劇場)

(2) B 4 横置き

平成 28 年 6 月	
<p>3 年 「文楽を守れるか」。</p> <p style="text-align: center;">3 年 組 番 氏 名</p> <p>①調べた内容の記録</p> <p>短のテーマ <input type="checkbox"/> 歴史 <input type="checkbox"/> 職業として <input type="checkbox"/> 人形 <input type="checkbox"/> 作品について <input type="checkbox"/> 新たな視点</p> <p>・第 2 期で他の班の人にプレゼンしやすいように、図や絵を添っても良い。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 200px; margin-top: 10px;"></div>	<p>②両合班で得た知識</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; margin-top: 10px;"></div> <p>③「文楽は守れるか」履修メモ・自分の結論</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; margin-top: 10px;"></div> <p>※評価の観点（原口が記入）</p> <p>①他人がわかりやすいよう、まとめてあるか。 10 5 1</p> <p>②必要な情報が整理して書かれているか。 10 5 1</p> <p>③自分の結論が明確であるか。 10 5 1</p>

(3) 独立行政法人日本芸術文化振興会（平成 28 年）『文楽入門—鑑賞のしおり—』

9 調べ学習での資料リスト

88回生 音楽「文楽を守れるか」 文楽関係資料リスト		平成28年6月 附属世田谷中学校図書館			
No.	書名	著者名	出版社	出版年	備考
1	学校百科・はじめてみる伝統芸能 (3)	藤田 洋	クロスロード	1989年4月	4冊
2	人形浄瑠璃の歴史	広村 久也	戎光祥出版	2002年10月	
3	文楽ハンドブック—文楽の全てがわかる小事典		三省堂	1994年11月	
4	文楽の歴史 (岩波現代文庫)	倉田 喜弘	岩波書店	2013年8月	
5	人形芝居と文楽 (日本の伝統芸能)	後藤 静夫	小峰書店	1995年4月	
6	文楽のツボ (生活人新書)	喜西 聖司	日本放送出版協会	2006年5月	
7	文楽へようこそ (実用単行本)	桐竹 勘十郎; 吉田 玉女	小学館	2014年4月	2冊
8	豊竹咲南大夫と文楽へ行こう (旬報社まんがぼうシリーズ)	豊竹 咲南大夫	旬報社	2004年12月	
9	新版 日本の伝統芸能はおもしろい 桐竹勘十郎と文楽を親よう	小野 幸重	岩崎書店	2015年3月	
10	日本の伝統芸能はおもしろい (5) 吉田寛太郎の文楽 (日本の伝統芸能はおもしろい (5))	小野 幸重	岩崎書店	2002年3月	2冊
11	なにわの華 文楽へのいざない: 人形遣い 桐竹勘十郎	桐竹 勘十郎	淡文社	2014年5月	
12	文楽をゆく (実用単行本)	吉田 玉男; 青木 信二	小学館	2015年4月	
13	頭巾かぶって五十年—文楽に生きて	吉田 寛助	淡文社	1991年8月	
14	人間、やっぱり情でんなあ: 人間、やっぱり情でんなあ (文春e-book)	竹本 住六夫; 穂波 優子; 竹本住六夫	文藝春秋; 文藝春秋	2014年10月	
15	文楽のこころを語る (文春文庫)	竹本 住六夫	文藝春秋	2009年1月	
16	文楽に親しむ	高木 浩志	和泉書院	2015年4月	
17	舞台裏おもて—歌舞伎・文楽・能・狂言	山田 庄一; 吉田 寛助; 岩田 アキラ	マール社	2006年4月	
18	文楽 人形のこころ—河原久雄写真集	河原 久雄	講談社	1993年2月	
19	木偶の舞う夢—最後の文楽人形師大江巳之助の世界	おおえ まさのり	共同プレス	1998年1月	
20	文楽にアクセス (劇場に行こう)	松平 盟子	淡文社	2003年10月	2冊
21	伝統芸能 (ポプラディア情報館)	三隅治雄	ポプラ社	2007年4月	
22	歌舞伎・文楽の見方が面白いほどわかる本	七海 友信	中経出版	2003年4月	
23	文楽さんま	亀岡 典子	淡文社	2005年5月	
24	恋する文楽 (ちくま文庫)	広谷 鏡子	筑摩書房	2003年2月	
25	新版 あらすじで読む名作文楽50選 (日本の古典芸能)	高木 秀樹	世界文化社	2015年9月	2冊
26	あらすじで読む名作文楽50 (わたるの本)	高木 秀樹; 青木 信二	世界文化社	2005年8月	2冊
27	文楽手帖 (角川ソフィア文庫); 文楽手帖 (角川ソフィア文庫)	高木 秀樹; 高木 秀樹	KADOKAWA	2014年8月	
28	其礼成心中	三谷 幸喜	バlico	2012年9月	
29	あやつられ文楽鑑賞	三浦 しずん	ポプラ社	2007年5月	2冊
30	仏果を得ず	三浦 しずん	双葉社	2007年11月	
31	三宅猫ホームズの文楽夜断	赤川 次郎	角川書店	2010年10月	
32	季刊 上方芸能 184 特集文楽を守れ	「上方芸能」編集部		平成24年6月	
33	浄瑠璃を読もう; 浄瑠璃を読もう	橋本 治; 橋本治	新潮社; 新潮社	2012年7月	
34	伝統演劇を学ぶ—日本の文化を今に伝える能・狂言・歌舞伎・文楽の世界 (美と創作シリーズ)	観世 栄夫; 林 久美子; 羽生 清; 安曇野 径	角川書店	1999年6月	